



③ 代替実習で到達できた目標 と到達困難な目標を考える

聖路加国際大学大学院 縄秀志

1

目標の達成度は？

1. 知識に関する達成度

- ・代替実習でも**同程度**の達成（**40.3%**）
- ・代替実習の方が**上回った**（**31.9%**）
- ・代替実習の方が**下回った**（**9.2%**）
- ・判断できない・無回答（18.5%）

2. 技術に関する達成度

- ・代替実習でも**同程度**の達成（**18.6%**）
- ・代替実習の方が**上回った**（**5.6%**）
- ・代替実習の方が**下回った**（**46.4%**）
- ・判断できない・無回答（29.2%）

3. 態度に対する達成度

- ・代替実習でも**同程度**の達成（**42.9%**）
- ・代替実習の方が**上回った**（**7.8%**）
- ・代替実習の方が**下回った**（**19.9%**）
- ・判断できない・無回答（29.5%）

知識に関する目標については、
7割以上が達成できたと回答している。

技術に関する目標については、
5割弱が達成できなかったと回答している。

態度に関する目標については、
5割が達成できたと回答している。



2

目標達成に効果的な代替実習方法と効果

<学内演習・学内実習のコンテンツ>

1. **オリエンテーション／事前課題の充実**
 - ①病棟の動画作成
 - ②目的・目標・感染対策をしっかりと伝える
 - ③文献学習、推薦図書、特集やドキュメンタリーの視聴
2. **事例を用いた看護過程の展開**
 - ①新たな事例作成－既存の教材／オリジナルの教材・動画作成
 - ②情報提示の工夫－臨床に近づけた記録様式の提示
 - ③看護場面のシミュレーション、ロールプレイ、演劇ワークショップ
模擬患者・市民、教員・TAの患者、学生同士の患者・学生
3. **看護技術の習得**
 - ①技術演習事例の作成
 - ②モデルやシミュレーターを使用
 - ③模擬患者・市民、教員・TAの患者役、学生の患者役に実施
 - ④学生による健康教育教材の作成、子供玩具の作成
 - ⑤自宅でできる看護技術の練習プログラムの作成
4. **病者の体験の理解**
 - ①オンライン・電話で利用者や市民とコミュニケーション
 - ②Webサイト：患者の語り、闘病記
5. **看護専門職としての活動と役割の理解**
 - ①専門職のオンライン講義・カンファレンス・指導
 - ②看護職や他職種へのインタビュー

<学内演習・学内実習の方法>

1. ICT活用
2. 時間をかけたグループワーク
ディスカッション・プレゼンテーションなど
3. 学生同士のピアグループ、オンラインでの質問・相談
4. 教員からのコメント・フィードバックの増加、リフレクションの場を確保
5. 臨床との協働、地域の協力、大学間の連携
6. OSCE

学生のペースでの学び
学生同士のアクティブな意見交換
教員や指導者等からの
丁寧なフィードバック
⇒**理解力・思考力・
創造力の向上**

3

代替実習では目標達成が困難であった内容

<目標達成が困難だった内容・目標>

1. **実際の患者とコミュニケーションや関わり、ケアができない**
 - ①患者からの情報収集の方法（患者理解）
 - ②家族の意思の尊重（共感的態度・倫理的配慮）
 - ③患者との関係性の構築（自己の在り方の内省）
 - ④患者への看護技術・ケアの実施（看護技術の習得／安全・安楽・自立・倫理的配慮）
 - ⑤個別性のある看護ケアの実施と評価
2. **看護師の実践を見ることができない**
 - ①看護師の患者への関わり方・態度を見て学ぶ
 - ②看護専門職としての仕事への理解
3. **看護師への報告ができない**
 - ①看護学生としての態度（自律性・主体性・責任）
 - ②自分のケアに対する自信
4. **チーム医療・カンファレンスに参加できない**
 - ①他職種連携・医療システム・医療制度の理解
 - ②看護の役割と機能の理解

・ 臨地での看護実践体験できない
⇒**病者中心のケアを実践する力
の育成が不足**

・ 現場での緊張感を味わえない
・ 情報のコントロール体験が少ない
・ 困る体験・失敗体験が少ない
・ 個人で責任を果たす場面が少ない
⇒**社会人としての基礎力（社会
性）の育成が不足**

4

コロナ禍の経験からハイブリッド実習を考える



患者・家族、看護師、他の医療者

様々な**ストレス**を緊張しながら**コントロール・対処**する
患者や看護師との関係を構築しながら**困る体験・失敗体験**を通して**内省**する
看護学生として**個人で責任を引き受ける**

臨地実習：患者・家族が中心の学び
⇒患者中心のケアを実践する力⇒看護の発見
⇒社会人としての基礎力（社会性）の育成



必要な情報が提供される
患者・場面が設定されている
学内実習：学生中心の学び
⇒理解力・思考力の向上

自分のペースで考え、何度でもやり直せる
安心できる場での意見交換・フィードバック